

景観になじむゴミステーション

A2201210 小西 彩花

研究の背景

2013年度 NHK 大河ドラマ「八重の桜」の主人公である新島八重さんの出身地であることから、今年度は観光地としての注目も高まりましたが、観光地という視点からは課題もあります。それは、観光地と住宅地が密着していることにあります。燃えるゴミの場合は、街によって様々な形式があります。ゴミステーションの場所を適切に確保できない地区では、ネットを用いて簡易的なゴミステーションを設けているという場所もあるのです。簡易的なゴミステーションすら設けられずにゴミ袋が等間隔に置かれている場所が存在します。

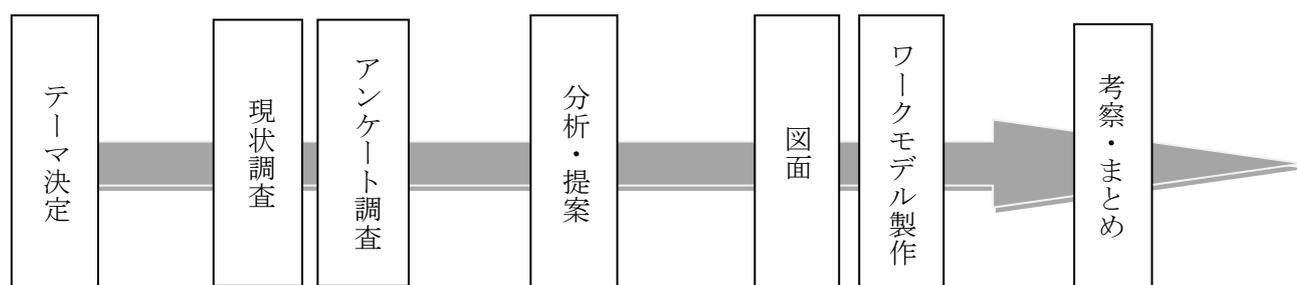
ゴミステーションの問題は、燃えるゴミに限ったものではなく資源ゴミにもあります。資源ゴミは、会津若松市から各地区に支給された回収ネットを使用しています。この回収ネットは、たたみにくいためにかさばったままの状態になってしまっています。

このように街のあちこちにあるゴミステーションが観光地でもある街の景観に配慮されてなく、改善が必要であると考えるためです。

研究の目的

これまで、街の景観に配慮されていないゴミステーションを街の景観に馴染ませることが本研究の目的です。具体的には、観光地「鶴ヶ城」の付近北出丸から旧会津総合病院前の通りのゴミステーションの改善することです。面倒だった収納方法を綺麗に収納しやすくすることと、狭い場所でも収納できるようにすることです。また今まで販売されている製品は、金属素材のため観光地の景観としてはとても際立ったものになってしまいます。その点を改善し、ゴミステーションを景観になじむことで観光都市としてふさわしいものになると考えています。

研究のプロセス



《現状調査》

はじめに、会津若松市のゴミステーションの現状を把握するために調査に出ました。可燃ごみは、街の中心部に向かうにつれて、住宅や商店が密接していきます。そのため、常設のゴミステーションを設置できずにネットをゴミ袋にかけるような簡易的なゴミステーションを道路に面した歩道などに設けています。



資源ゴミについては、会津若松市から各地区に支給された回収ネットを使用しています。その回収ネットは、たたんではあるもののかさばったままごみ収集所に置かれていることがほとんどでした。



そこで、観光地である鶴ヶ城付近のゴミステーションの現状です。この地区の面した通りは、観光バスも多く通ります。また、住宅や商店が密接しているため、各々の家の前などにゴミ袋のままおかれている状態でした。市役所の廃棄物対策課の方にお聞きしたところ、収集時間を朝8時半までと厳しく決まっており朝9時までには回収されるということでした。資源ゴミは、やはり決められた場所にゴミステーションが設けられていました。

《アンケート調査》

会津若松市のゴミ収集委託業者と鶴ヶ城付近の住民の方々にアンケートを行いました。ごみ収集委託業者へのアンケートは、13社のうち9社からの回答がありました。どの業者とも曜日ごとに異なった場所の収集を行っていました。また、“ゴミステーションにのぞむことはありますか”という質問には、「曜日を守ってほしい」「ルールを守ってほしい」などの声が多く挙げられました。

そして、鶴ヶ城付近の住民の方々へのアンケートは一軒ごとに訪問し行いました。主に商店を営んでいる方が多かったです。60歳以上の方ご意見を多く聞くことができました。“現在のゴミ集積所についてどう考えますか”という質問に「捨てやすく(近く)て便利」という回答に多数の票が集まりました。しかし、“もし、ゴミの集積所を減らすとしたらどう考えますか”という問いには、「賛成」という方もいました。訪問を通して住民の方々の生の声が聞くことができました。

成果物(完成作品)

景観になじむゴミステーションということで、使用していないときにも景観に配慮しているものを考えました。回収時には、開くことのできる折り畳み式のゴミステーションです。鶴ヶ城付近は、江戸時代の雰囲気も残っているということもあり木材をしようし、木の温かさを出します。木の色合いは、街の景観にあうように選べるようになっています。木の腐敗かは、防止できる塗料をもちいります。また、市役所の方や住民の方からのアンケート調査でルールが守られていないという点の改善で、ゴミの分別を呼びかけることのできるポップでわかりやすくしました。

考察

ゴミステーションの調査を行って、会津若松市の方々もどうにかしたいという意見を聞きました。しかし、利便性との間で揺れているのもヒシヒシと感じ研究の難しさを実感しました。本研究を通して観光地のゴミステーションのあり方をこれからも考えていかなければいけないと考えました。